

まちのお金の使い方をチェック

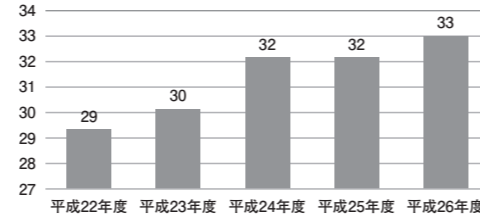
9月8日から開会した「第5回定例会」に、町長から平成26年度各会計決算認定案が上程されました。これを審査するために、議員全員で構成する「決算特別委員会」（藤本委員長、諏訪本副委員長）を設置し、委員会に付託し審査することとした。決算特別委員会では、2日間にわたり調査・質疑等を行い、慎重に審議した結果、全ての会計を全会一致で「認定すべきもの」と決定し委員長報告書を作成し閉会した。特別委員会閉会后に再開した本会議では、委員長が報告を行い全て原案のとおり認定した。

町税などの主な収入未済額

会計名	25年度末	26年度末	増減額
町税	9,231万円	8,980万円	△251万円
老人ホーム入所費用	4万円	4万円	0万円
保育料・児童クラブ利用料	142万円	114万円	△28万円
溜池農道負担金	9万円	9万円	0万円
町営住宅使用料	63万円	69万円	6万円
住宅新築資金貸付金	757万円	757万円	0万円
生活保護費返還金	136万円	203万円	67万円
学校給食保護者負担金	29万円	33万円	4万円
児童扶養手当返還金	78万円	68万円	△10万円
国民健康保険税	9,713万円	9,316万円	△397万円
下水道受益者負担金・使用料	1,261万円	1,146万円	△115万円
後期高齢者医療保険料	67万円	189万円	122万円
介護保険料	1,204万円	1,163万円	△41万円
水道料	2,615万円	2,297万円	△318万円
合計	2億5,309万円	2億4,348万円	△961万円

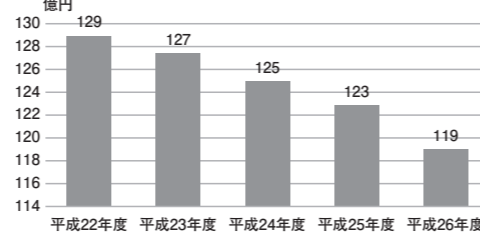
※表示単位未満は切り捨てのため差引額及び合計額が一致しない場合があります。

基金（まちの貯金）



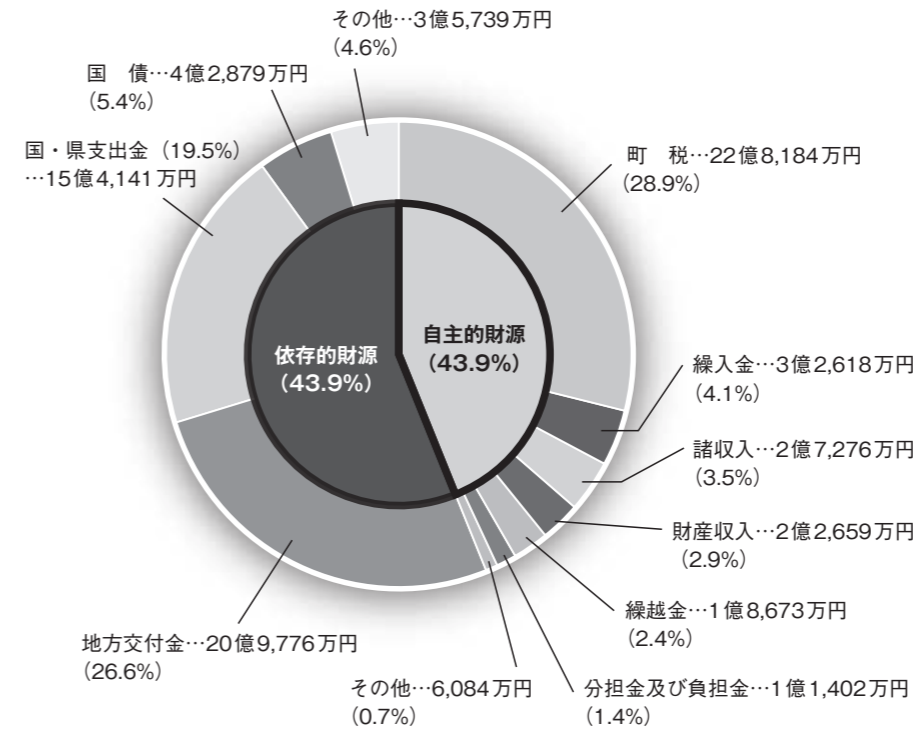
▲町民1人当り13万円

地方債（まちの借金）



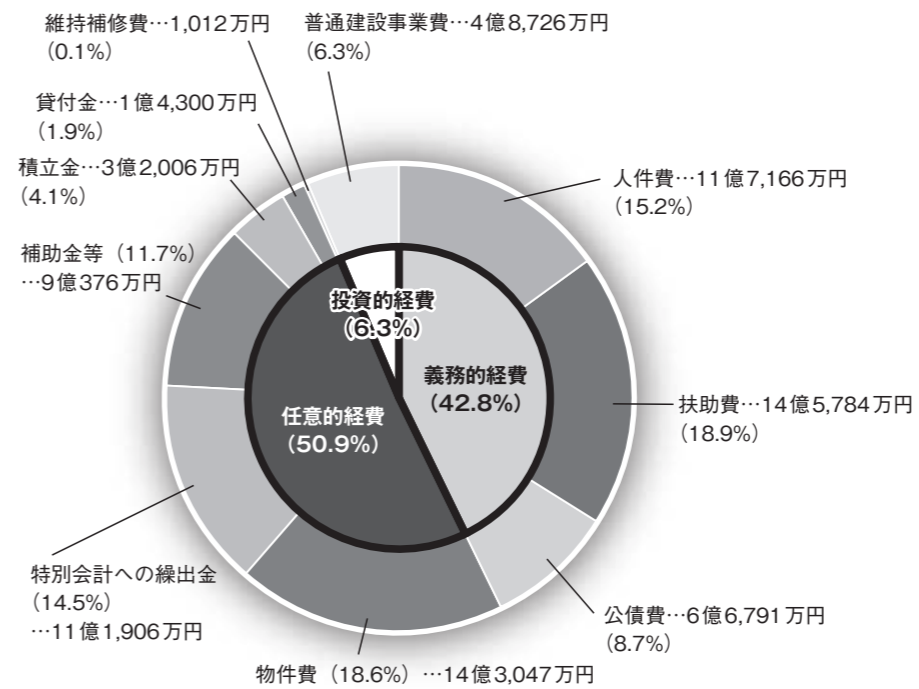
▲町民1人当り48万円

一般会計決算 歳入総額 78億9,431万円



◎歳入（まちに入ったお金）
今年度の一般会計の歳入決算額は、78億9,431万円です。前年度に比べ、1億3,330万円の増収となっています。歳入決算額を自主的財源（町が自主的に収入できたお金）と依存的財源（国や県から交付されたお金等）に分類すると、自主的財源の構成比が43.9%、依存的財源が56.1%となっています。やや、依存的財源の占める割合が高くなっています。

一般会計決算 歳出総額 77億1,711万円



◎歳出（まちが使ったお金）
今年度の一般会計の歳出決算額は、77億1,711万円です。前年度に比べ、1億4,283万円の増となっています。歳出決算額を性質別に分類すると、人件費や扶助費、公債費を合わせた義務的経費は、全体の42.8%を占めています。支出が社会資本形成に向けられる投資的経費の割合は6.3%を占めています。また、それ以外の任意の経費は50.9%を占めています。

まちの貯金と借金

まちの貯金である基金残高は、33億円です。前年度より1億4,000万円増加しています。一方、まちの借金は、当たる地方債は、11.9億円で前年度より3億5,000万円減少しています。

なお、町民一人当たりで計算すると、貯金が13万円、借金は48万円となります。

収入未済額は減少傾向

町税等の収入未済額は、前年度より961万円減少しています。区分別では、町税、国民健康保険税、水道料金等で減少しています。しかし、後期高齢者医療保険料は、増加傾向にあります。

質疑の一部を紹介

「くまの産業団地」売売に伴う雇用の創出

Q 「くまの産業団地」売売に伴い、どの程度の雇用を見込んでいるのか。
A 業者からは、平成28年に操業を開始し、10年間で10名まで雇用を、B業者からは、来年度できれば6名を雇用し、概ね1年間に10名まで雇用を伸ばす予定をいただいている。

配水管敷設工事の進捗状況

Q 老朽化している町内の配水管敷設工事は、東日本大震災より国からの補助金が減額され、進行が遅れていると聞いているがどのような状況なのか。
A 以前は、国からの補助金があったが、その制度が廃止されたため、現在は町単独で行っている。今後計画を練り直して10カ年計画で熊野団地を更新していく。

東公民館建替の予定

Q 西公民館が今年度完成するが、今後、東公民館についてはどのように考えているのか。
A 何年に実施するかは言えないが、西公民館が終り次第、東公民館の問題に取りかかりたいと考えている。